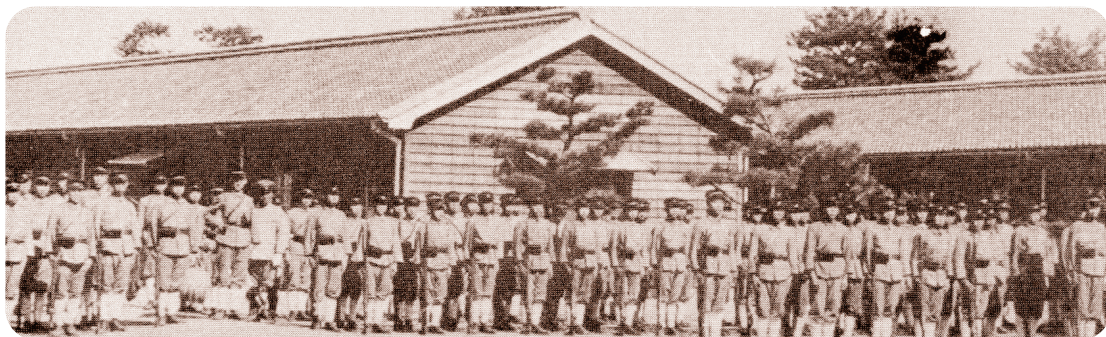




府下中等学校野外連合演習 信太山堂舎前に整列

養生道場での生活は3組単位で2泊3日が原則で、大体つぎのようなものであった。

第1日、朝学校を出発、市電にて阿倍野橋へ行き、阪和線を利用して和泉府中で下車しこれより徒歩約6kmで道場に到着する。持参の弁当を食べてから午後の日課に入る、野外演習の後入浴して楽しい夕食となる。夜は教科学習または講話があり、9時頃就寝する。

第2日、日の出前に起床して、光明池（道場の前を通る父鬼街道を約300m南のところにあった）まで駆足、ここで日の出を拝し爽快な気分を味って体操をする。午前中は3、4時間の授業があり、午後は自習、作業または教練があった。夕食後には講堂で、自慢のかくし芸の披露や寸劇自作の漢詩の吟詠等をやって楽しんだ。

食事は炊事当番が出て、主食、副食の盛分け、汁の配分等を行った。用意が終れば号令によって各部屋に待機している生徒が手に手に箸を持って食堂（講堂）に行進、全員が着座すると、先生または代表者に続いて五訓を唱和してから「いただきます」といって食事を始めた。終れば炊事当番が食器を片付けて洗う、飯は1合の盛り切りで少々空腹気味で辛かった。

部屋は畳の間に階段式の寝台が両側にあった。就寝の合図後も、先生方の監視の目を避けて、静かに？騒いだり、ほんとに静かに、色々なことを話し合った。一番楽しい一時であった、汚染混濁した空気の中の生活から逃れた道場生活は辛い反面楽しい青春もあった。

（田池留吉）

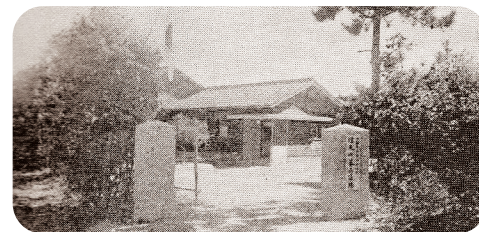
田池先生が書き残した 信太山の生活

（市岡高等学校 70 年記念誌より転載）

信太山道正道場について

皇紀 2600 年（昭和 15 年）記念事業として、当時の保護者は「市岡中学校生の宿泊訓練道場を郊外に建設し、よって同校生徒の心身練成上大いに貢献せん」と決議し、昭和 15 年 7 月泉北郡信太山付近に候補地を決め、同 17 年 3 月土地買収 8 月 27 日竣工式が行われ「信太山養正道場」とされ以後宿泊訓練の場となった。

なお、この道場は、その後昭和 36 年に売却され、創立 60 周年記念事業として建てられた新^{れいひょう}漑標会館（現食堂）の建築費にあてられた。



信太山道正道場